

## 明日も晴れるかな

今日もあと少しだけ  
暗くなってくまでの  
綺麗な西の空  
明日も晴れるかな

振り返ってみても  
大したことできないで  
気がついたら夜のとぼり  
休息が与えられる

やる気に頼らないで  
目の前のことだけ  
いやおうなく手がけていた  
知らないうちにジエンド

ほのかにオレンジの  
白く眩しい空を  
見つめるひととき  
明日も晴れるかな

このところの毎日  
なんとなく過ぎてゆく  
もしかしたらそれはいいこと  
落ち込むことでなくて

気がつかないだけで  
やれることあるだけで  
少しずつの頑張り続け  
やがて何かが成り立つ

ほのかにオレンジの  
白く眩しい空を  
見つめるひととき  
明日も晴れるかな

今日もあと少しだけ  
暗くなってくまでの  
綺麗な西の空  
明日も晴れるかな

## 言葉失うほど

言葉失うほど自然のアート  
舞い散る落ち葉に水鳥が動く  
鏡のような水面いっぱい  
日暮れ前の空一面に光る

しばらく佇んで  
上下対称パノラマ

おそろしいほど水の輝き  
浮かび上がる仮想の空間  
おそらく同じ思い描いて  
訪れる人それをみつめる

やっとの思いで訪れた景色  
映像とは違う五感で触れ合う  
随分前から浮かんでた風景  
想像した色とは違っていただけ

しばらく佇んで  
絵画の世界惹かれる

神秘に映る色づく林  
立ち入られない柵から眺める  
汚れることない守られたもの  
訪れる人それをみつめる

## 月の世界

いとけうらに老いもせずなん  
思うこともなくはべるなり  
誰もが憧れる世界には違いない

死なずに死ねずに  
悩むこともなく  
永遠に生きる  
ことできるのかな

終わりがあから人は頑張れる  
頑張ることから悩み生まれる  
清らかなままで老いることもなく  
生きていたいのはそうだけど

いとおし悲しと  
おぼしつることもうせぬ  
全てを消し去ってくれる天のはごろも

恨みや妬みが  
なくなる代わりに  
執着や愛も  
生まれないのかな

愛があるから人は頑張れる  
頑張り終えたら次の苦しみ  
怒ることなく悲しむことなく  
生きていたいのはそうだけど

いとけうらに老いもせずなん  
思うこともなくはべるなり  
誰もが憧れる世界には違いない

## 秋雨

秋雨が心に降る  
どこか  
哀しげで心落ち着く

季節をすっかり入れ替える  
降り続く日が過ぎるたび

手にしたカップ  
静かにコーヒー  
すする音も雨に流れ行く

今年あった出来事  
思い起こすと同時に  
良かったと思うこと  
過去になってゆく実感

秋雨が心に降る  
どこか  
哀しげで心落ち着く

雨が降るたびに寒くなる  
時折吹く風過ぎるたび

手にした傘の  
雫が首筋  
あたる冷たさ雨に流れ行く

今年あった出来事  
残す記憶にするために  
悪かったと思うこと  
それも美化してく実感

秋雨が心に降る  
どこか  
哀しげで心落ち着く

## ろうそくのあかり

炎を見ていると昔を思い出す  
ほんのり暖かい穏やかなあかりで

それまで暗かった部屋の中だけでなく  
沈んだ気持ちもふっと和らげる

心が疲れて荒んでしまっても  
どうにか明日を迎えられるようだ

やり場のなかった見つめるところまで  
燃えるその中に視点与えてくれる

ギクシャクしている二人の会話ですら  
目を合わさないで話しやすくなる

ろうそくのあかり映し出すもの全てが  
自分の顔でさえ優しく見えている

影のうつろいお互い眺めては  
存在感ゆるぎの中に

## なりゆきで

振り返ると  
いつの間にか知らないうちに  
その場しのぎの なりゆき任せで  
自分のこともわからないまま  
ここまで来たようだ

一所懸命な時も  
どこか冷めていた  
これしかないと思いつつ  
忘れることもあった

ありったけを尽くし  
思いぶちまけても  
それがなんだったか  
わからないでいる

振り返ると  
いつの間にか知らないうちに  
気の向くままの 思いつきだけで  
あと先のことも考えないで  
ここまで来たようだ

一世一代と言われても  
どこか冷めていた  
ここが正念場と思いつつ  
何かがシラけていた

できること全て  
さらけ出してみても  
それで良かったのか  
わからないでいる

## 落ち葉色の大地

夏が過ぎて寒くなってゆく  
今年の緑の終わりが  
最後の命注ぎ込むように  
いきいきとした大地へ

気持ちよく舞い上がる  
空気を思わせる落ち葉に  
冬支度の虫たちも  
暖かくかこまれる

そうだったやり残した  
まとめないと今年も終わる  
あれこれと手をつけて  
何もできないまま過ぎてゆく

誰からも忠告されない  
この歳になった戒めに  
カラフルな色に化粧された  
落ち葉色の大地に教わる

これまでやってきたことより  
これから何ができるのか  
モノトーンになるまでの  
残された時間に

実りの証 伝えること  
考えないと虚しく終わる  
あたふたとしてるだけで  
何もできないまま過ぎてゆく